

安全は 楽しい活動の第一歩

スポーツ活動

(野球、サッカー、テニス等)



多いけが

- ①打撲②ねんざ③突き指

けがをした状況

- ボールをよけた時に人とぶつかって転倒し、後頭部を強打
- 走っている時に足をひねってねんざ

安全指導のポイント

- 活動中は周りをよく見ながら動くように指導する。
- 活動前にウォーミングアップやストレッチをして筋肉を伸ばし、体をほぐすようにする。



体験活動中のけがの多くは、本人の不注意や不慣れ、指導者の注意不足など、ヒューマンエラーによって起きています。

安全に楽しく活動できる環境を作るには、どのような活動でこういったけがやエラーが起きやすいのかをよく理解し、状況に応じて適切な指導や対策を行うことが大切です。

登山・ハイキング



多いけが

- ①ねんざ②虫さされ③打撲

けがをした状況

- 下山中、足場の悪いところで足をひねってねんざ
- 下山後、足首をみたらマダニがついていた。



安全指導のポイント

- 下山中は疲労で注意力が低下しやすいことから、適宜、休憩を取り、足場が悪いところは注意しながら歩くよう指導する。
- ハチやマダニの被害を防ぐため、登山に適した服装や着方(シャツの裾をズボンに入れる等)をするように指導する。

野外炊事



多いけが

- ①やけど②きり傷③虫さされ

けがをした状況

- 火起こしの時に火の粉が飛んできて腕をやけど
- 薪を押さえていた手にナタが当たり、指を切った。

安全指導のポイント

- 軍手、長袖、長ズボンなど野外炊事に適した服装をするように指導する。
- 包丁やナタの使い方を説明するだけでなく、誤った持ち方や動かし方を実際に見せながら安全な使い方を分かりやすく説明する。



自由時間



多いけが

- ①打撲②きり傷③すり傷

けがをした状況

- 友だちとふざけて遊んでいた壁に頭をぶつけて出血
- ベッドで跳んで遊んでいた落ちてしまい、ベッドの角で足をぶつけて切れた。



安全指導のポイント

- 自由時間は気が緩みやすく、けがが多いことを伝え、安全意識(自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等)の向上に努める。
- 廊下や部屋を走り回ったり、ベッドや階段で遊ばないように指導する。

これも気をつけたい! 熱中症



熱中症といえば、気温や日差しといった環境要因に目がいきがちですが、疲労や体力不足、寝不足、水分不足といった本人の状態も影響してきます。また、屋外活動だけでなく、雨の日の屋内活動や夜の時間帯でも熱中症は起きているので注意が必要です。そのため、活動中は子どもの様子をよく観察し、無理のない活動を心がけるようにしましょう。

「熱中症を予防しよう-知って防ごう熱中症-」パンフレット→
(独立行政法人スポーツ振興センター HP より)



安全管理の3つのポイント

POINT
01

状況に応じた安全対策

計画段階ではできるだけ多くの危険を考え、活動中も危険の発見・把握に努めながら、状況に応じて適切な安全対策を行うようにしましょう。

五感を使って危険を察知

事故やけがにつながりやすいのは、危険があると一目では気づきにくい危険や、見落としやすい隠れた危険です。

想定外の事故やけがを起こさないように、活動中は五感をフルに活用し、隠れた危険を見落とさないようにしましょう。

Taste

変な味
熱い・冷たい
舌が痺れる



Hear

落ちた音
壊れる音
異常音
叫び声
怒鳴り声
泣き声



Smell

焦げ臭い
腐った匂い
オイルの匂い
雨の匂い



Touch

風
熱さ・冷たさ
へこみ・ゆるみ



Watch



活動前のチェックリスト

- 活動場所で危ないところがないか、使用する用具に破損がないかなどを点検しましたか？
- 気象情報（天気、気温、湿度、風など）を確認しましたか？
- スタッフ間で情報共有（子どもの人数や特性、役割分担、配置、禁止事項、緊急時の対応など）はできていますか？
- 子どもたちは活動に適した服装をしていますか？
また、持ち物も確認しましたか？
- トイレや水分補給を事前に済ませたか確認しましたか？
- 体の調子が悪い子どもや気分がすぐれない子ども、寝不足の子どもはいないか、活動前に確認しましたか？
- セーフティーク（安全指導）を行いましたか？

POINT
02

安全を確保できる体制づくり

一緒に指導するスタッフと、活動に伴う危険の情報を共有し、活動中の安全対策や事故が起きた時の対応を確認しておくなど、子どもの安全を確保できる体制を作るようにしましょう。



POINT
03

子どもへの安全指導

活動の心構えとして「自分の身の安全は自分で守る」ことを伝え、活動前には必ずセーフティークを行うようにするなど、子どもの安全意識の向上に努めるようにしましょう。

あせるとけがのもと！



階段では遊ばない！



安全に楽しむ第一歩 「あしあとのむき」

施設で楽しく過ごすには、子ども自身が安全を意識し、行動できるようになることが大切です。6つの行動と心構えを大切にしましょう。

廊下や部屋では**ある**きましょう

活動中は**しゅうちゅう**しよう

時間がなくても**あせ**らない

階段・ベッドは**とび**おりない

疲れた時は**むり**をしない

自由時間も**き**をつけよう



「あしあと(の)むき」を意識して、安全に楽しく活動するようにしましょう。

